

第 6 回審議会 グループ協議の結果まとめ

	協議① 望ましいと思う候補案			協議② 学校再編の具体案の検討における「必要な視点」
	候補案		主な意見	
A グループ	①	△	【候補案③、④】 ・次第に児童生徒数が減少するならば、ブロックは少ない方がよい。 【全体】 ・各ブロックとも広域となるため、スクールバスの検討が必要。 ・北川辺中学校区について、「モデル地域として設定し、新しい取組を導入する」や、「水害のリスクを踏まえ、地域の防災拠点としての学校づくりを検討すべき」といった意見。 ・民間企業の送迎バスをスクールバスとして使い分けることもできるのでは。	
	②	△		
	③	○		
	④	○		
B グループ	①	○	【候補案①、②】 ・こどもたちの教育の継続性や地域とのつながりが保たれるのではないか。 ・規模の異なる学校の児童がうまくなじめるかという懸念から、候補案②であれば教育の継続性を担保しつつ、再編を進めることができるだろう。 【候補案③、④】 ・各ブロックとも広域となるため、ブロック内で長期的に学校を維持できる規模を確保できる。 【全体】 ・再編により使われなくなった学校施設の利活用といった視点も含めた検討が必要。	▼スクールバスの導入 ・小学生の通学時間・距離が最大の問題となる。 ・現状でも保護者が送迎している家庭もあり、そういった状況も含めた検討が必要。 ▼学校再編の優先度 ・大越小学校のように複式学級を編制している学校は急務である。 ・児童数の少ない学校は、優先度が高いと考える。 ・一度再編をしたものの、再び再編をするということにならないよう、20年後どうなるのかという視点も含めて検討する。 ▼地域とのつながり ・学校ごとに教育の進め方や地域とのつながりが異なるため、地域との融合も含めて考えなくてはならない。 ・過疎化が進む地域における人口増の方策など、様々な視点から議論をしないと解決できないのでは。 ・現状の学校を残すべきという意見もあったが、教員の確保という観点から現状を維持できるのか。
	②	○		
	③	○		
	④	○		
C グループ	①	△	【候補案③】 ・再編に当たり、南北・東西にかけて検討の柔軟性がある。 ・優先度 4、5 の学校はある程度児童生徒数が安定しており、それ以外の学校をどう再編していくかということを考えると、候補案③が望ましい。 【全体】 ・河川や公共交通機関をまたがない、という点も考慮する必要がある。 ・これまで育まれてきた地域性や行政区の取組を考えると、現行の中学校区を基にしたブロック分けも重要だ	▼学校再編の優先度 ・社会性を身につけるためにはある程度の人数が必要である。 ・児童生徒の経験の格差を解消していくことが重要。 ・優先順位 1～3 の学校は、早急に取り組む必要がある。 ・特別支援学級の児童生徒への配慮という視点。 ▼Aブロック（北川辺中学校区） ・当該ブロックはいずれの候補案においてもそのままということになるが、現状や将来推計から児童生徒数の減少は免れない。 ▼スクールバス ・スクールバスを運用する場合、道路整備やバスを受入れる敷地の確保・整備が必要。 ▼児童生徒への配慮 ・再編が想定される学校において、人間関係プログラムや人権教育などの準備、事前の交流会などの実施。
	②	△		
	③	○		
	④	△		